

『文豪たちの友情』 文庫化記念 うるわしき古書の世界

『文豪たちの友情』の資料を調べているとき、大正から昭和初期の本の魅力に目覚めてしまいました。現在の出版ではなかなかできない贅沢な装幀、古い紙と活版印刷の質感が堪りません。ほんの一部ですが入手できたものを紹介します。



(1)

第一書房の本

長谷川巳之吉が大正12年に設立。長谷川の友人でもあった堀口大学の『月下の一群』『堀口大学詩集』、『萩原朔太郎詩集』『西條八十詩集』など、革表紙に箔押しを施した美しい本は読書家の憧れの的だったことでしょう。



(2)



(3)

- (1) 『萩原朔太郎詩集』
昭和3年3月25日発行
- (2) 『堀口大学詩集』
昭和3年6月15日発行
- (3) 『西條八十詩集』
昭和2年12月15日発行

佐藤春夫の本

画家を志そうとしたこともあった佐藤春夫は、独特の美意識で自らの著書をプロデュースしました。

『佐藤春夫詩集』（大正15年、第一書房刊）は箱と本体の組み合わせがおしゃれです。赤い表紙が鮮烈な『車塵集』（昭和4年、武蔵野書院刊）は芥川龍之介に捧げられています。装幀は芥川の友人だった画家の小穴隆一。『退屈讀本』（大正15年、新潮社刊）は、芥川や他の文豪の話もたくさん出てくる随筆集。『小説 環境』（昭和18年、実業之日本社刊）は見返しに長男の絵を使うという親ばか全開本ですが、今見てもポップで可愛いデザインです。『一吟双淚抄』（昭和10年、野田書房刊）は敬愛する師・永井荷風に題字を書いてもらった詩集。シンプルですが、紙自体に絹のような光沢があって美しい。

